



医 看護師 ヘルパー

健友会 電話 03-3387-3051

健友

第148号 2024年9月

発行 社会医療法人社団健友会
中野・杉並健康友の会
〒 164-0001 中野区中野 5-44-3
TEL 03-3387-3051 FAX 03-3388-1381
編集 「健友」編集委員会
ホームページアドレス www.kenyu-kai.or.jp/



助成制度の詳細を知りたい方は…



中野区ホームページに補聴器助成制度の利用対象者など、詳細が掲載されています。左の二次元バーコードよりご確認ください。

【問い合わせ先】
中野区地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課在宅サービス係

中野区は「高齢者補聴器購入費の助成」の申請を8月1日から受付けています。中野・杉並健康友の会も参加する中野社会保障推進協議会では、2021年から2度にわたって区議会に助成を求める陳情署名を提出する運動を展開。昨年度から助成を開始した杉並区に続いて、中野区でも助成制度が実現しました。「いつまでも聞こえる耳を」持つためには制度を広めて、活用していきましょう。

最初の陳情は不採択

補聴器は高額であることから聞こえが悪くなつたと自覚しても経済的に余裕がなければ購入できません。2020年ごろは全国的に助成制度を求める運動が広がりました。

2022年秋から翌年6月の議会への提出を目指して、2度目の署名運動が始まりました。今回も友愛クラブをはじめ、区内の幅広い団体にもお願ひして、前回を上回る3000筆超を提出。全会一致で採択され、その結果今年8月から、片耳に4万5千円（両耳の場合には9万円）の助成制度が実現しました。

助成制度を求める運動は、5年
長い時間をかけて両区で実現の運
びとなりました。運動開始当時の
都内の助成自治体数は12、現在は
26自治体（2024年1月現在）
が実施するまでになりました。人
生100年時代に、「聞こえは人
権」であることを学びながら求め
続けてきた成果です。

う話から始まりました
▼法律用語とはいえ
「無能力者」呼ばわり
は驚きです。「不平等
が当たり前の時代に生
きた主人公の寅ちゃん
こと、女性初の弁護士
の一人、三淵嘉子さん
のたたかいの物語です
▼世界の変化と女性や

『聞こえ』のある生活が高齢期を豊かに

わたし
朝ドラ「虎に翼」
NHKの朝
に、衝撃を受けました。戦

中野区講会の不採択の理由は「難聴と認知症との関係を国は認めていない」というものでした。再度、小川氏を招いた学習会では「厚生労働省は認知症の危険因子として難聴を認めている」と指摘がありました。

再度の陳情に向けて

杉並区 補聴器をつけてみたら

杉並区でも不採択を経て、岸本聰子新区長の下、2023年の予算から補聴器購入の助成が実現しています。利用者の声を聞きました。

加藤幸子さん（70代） テレビで好きな音楽番組を聴いていても歌詞が聞きとれなかつたり、普段の会話でも聞き返すことが多かったです。それでも、補聴器は老人のイメージが強く、高額でもあり着けようとまでは思えませんでした。きっかけは補聴器を着けている方との出会いです。見た目では着けているのが分からないし、よく聞こえるようになったと聞いて、それならと耳鼻咽喉科を紹介してもらいました。

生活が豊かになりました。友だちとの会話や音楽が楽しめるようになりました。補聴器は身体の一部だと思います。聴力に合わせて調整してもらい、慣れるまでに最低3か月のトレーニングが必要なので、なるべく早いうちに着けることが大事だと思います。

菊地幸子さん（80代） 職場の福祉作業所では、一人ひとりに「おはよう」と声をかけて迎えるのですが、「おはようって言ってもらえたなかった」と利用者さんに言われたんです。一人暮らしで自分では困ってなかつたし自覚もなかったのですが、孫にテレビの音が大きいと言われました。耳鼻咽喉科で聴力検査をうけたところ軽度の難聴との判定で、着けることにしました。

これから的人生、好きなことを楽しんで生きていくと思ってコンサート、映画、演劇、歌舞伎などを行っています。聞こえることが当たり前ということがあります。

度を求める運動は、5年をかけて両区で実現の運びました。運動開始当時の自治体数は12、現在は（2024年1月現在）までになりました。人年時代に、「聞こえは人のことを学びながら求めること」を学びながら求めた成果です。

に、経団連が制度の早期導入を求め注目されたように大きく変わり始めています。現代に生きる私たちにとって「虎に翼」物語は、憲法の基本的人権や男女平等など文字通りのジエンダー平等を実現するたかいで物語でもあり、今後も注目していきたいです。（植）

住みなれた自宅で
⑯

引きこもりの息子さんとの
二人三脚の生活を支える

上高田訪問看護ステーション所長 中根綾

同居する40代の息子さんは学生時代から引きこもりになり、精神疾患の未治療状態。Aさんは妻と別れて父一人子一人の父子家庭で、Aさんが息子さんの面倒もすべて見ながら生活を支え、脳梗塞で倒れるまで頑張ってきた結果でした。

訪問開始から8か月が経ち、今ではAさんの介護サービスに加えて息子さんに精神科医師による訪問診療・ヘルパー・保健師が関わっています。精神科医師の指示により息子さんにも週に一度訪問を始めました。Aさんと息子さんと3人で行う屋外歩行訓練はどちらのリハビリにもなるよい時間です。課題はまだまだあります、お二人が安心して暮らせる生活に向けた支援が進んでいます。

病状への看護、リハビリはもちろんですが、生活全体の困りごとにも力になれ、そんな訪問看護を目指しています。

産地で生産者と同じ思いを
いま米を米穀専門店で購入する方は約3%しかいませんが、お客様のん二ーズにこたえようと産地に足を運んでいます。生産者といい、田んぼを見学させていただき、お米作りの思いなどを聞いて、情報交換しています。生産者や環境を紹介してなくて値札に写真をつけています。

「おにぎり」への熱い思い
1951年の開業から3回目の改築を昨年7月にしました。2代目が始めた「おにぎり」販売を継承し、改築一周年記念で『おにぎりグランプリ』を開催。店内の結果発表を見てお客様が「私の1票はここね」との会話。おにぎりは20種類あり季節ごとに限定商品も販売しています。就学

前のお客層は幅広いで、改築の設計段階で、子供たちがまでもやねん

人 街のお米屋さんから 全国のお米好きさんへ発信

ドルがありました。このおにぎりが料理雑誌「dancyu（ダンチュウ）」に掲載（23年11月）されました。

脳梗塞で緊急入院し、右半身まひの後遺症が残るAさん。退院後に自宅でもリハビリを続けられるよう、訪問リハビリの依頼がありました。入院先のソーシャルワーカーから「自宅がゴミ屋敷で引きこもりの息子がいる」との情報があったため、退院後初回の訪問にはリハビリを行うセラピストと一緒に看護師も同行し、状況を確認しました。ご自宅はため込んで、ゴミで浴室も台所も使えず、エアコン・冷蔵庫は故障中、ガスは未払いと止まつていました。

この夏、新型コロナウイルス感染は増加を続けました。7月19日時点では、杉並区6・47人で両

す。そのため、感染している患者さん一人あたり2倍以上の対応時間を要します。

口ナに感染し、入院先で
探しても見つからず、自宅療養になりました。口
ごろ利用していたヘルパーは感染により訪問でき

自分で対応していくこと困難な状況です。私た 現場としてははせめてこ 療養施設を復活させて しいと思っています。

看護・介護の現場から 80

高齢者医療への影響は深刻に 5類移行後の新型コロナウイルス

看護部長 渡邊 由絵

新型コロナは感染症の分類が2類から5類になりましたが、ウイルスの性質が変わったわけではないので、感染拡大防止のために病院内で行う対策は今も変わりません。接触、飛沫で感染が広がるため、入院中は感染している患者さんと非感染の患者さんの部屋を別にし、関わる看護師は感染し、防具を使用して対応します。以上の増加です。

限を強いることになります。こうした日常生活の大きな変化は認知症の症状や進行にも影響します。一般病院の中では常の医療活動を行いながら感染者と非感染者に対する応じていくことはマンパワー的にも、経営的にもすでに限界です。

ま城市の症通かい対かもハバ新・・・

たったのです。診療医タッフは訪問看護が始まるまで食事・薬の内服日常生活援助・安否確認で支えました。その何とか訪問看護が決まり、自宅で本来の療養ができるようになりました。

東京都は9施設あります。高齢者等医療支援型施設を昨年度末で鎖しました。医療機関

7月18
暑にもか
気な歌声
めての方
憩時間に
は7月の
スペシャ
ル、アイ
スクリー
ムをいた
だき、ひ
とときの
涼を楽し
みまつり

に負けず、桃井健康友の会日、うたう会を開催。狂かわうず21人の参加で元が響きました。今回も初の参加がありました。体

火止用ガラス 東京都薬用植物園で
（雙刃）

偏見を持たずバリアフリーで

認知症サポーター養成講座



講座では認知症予防運動プログラム
「コグニサイズ」にもチャレンジ

バリアフリー：障害のある人や高齢者などが、身体的、精神的、社会的な障壁（バリア）を感じることなく、安全で快適に暮らせる社会を目指す考え方のこと。

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。誰もが認知症になる可能性があり、特別な病気ではありません。認知症の当事者と家族が地域で安心・安全に暮らせるよう、理解と支援が社会に求められています。健友会では講師派遣などを通じて厚生労働省の施策の一つ「認知症サポーター」の養成に取り組んでいます。

中野共立健康友の会は認知症サポーター養成講座を6月19日に開き、未会員含め20人が参加しました。講師の塙田麻美さん（中野共立病院居宅ケアマネジャー）は、「日時・場所・人物を忘れてしまう」「ATMの使い方がわからなくなる」といった身近なケースを交えて症状の種類や行動の特徴を解説。DVDの教材では、ゴミ出しの説明や買い物の支払いなど日常的な場面での声掛けや接し方をドラマ立てで学びました。

塙田さんは「サポーターとは、困っている人に『おせっかい』をやいて手を差し伸べる人。支援で大切なのは、認知症に偏見を持たないバリアフリー」と語り、当事者と家族への理解を促しました。

受講者の声

誰かのためにではなく、自分のため

認知症サポーターとは

- ①認知症について正しく理解し、偏見を持たない
- ②認知症の人や家族に対して温かい目で見守る
- ③近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する

基本姿勢 認知症の人への対応の心得 —3つの“ない”—

- ①驚かせない
- ②急がせない
- ③自尊心を傷つけない

注：認知症サポーター養成講座標準教材
「認知症を学び地域で支えよう」より

「眼鏡をかけている人は視力が弱いとわかるように、認知症も周囲にわかつてもう方がいいと講師に言われ、目から鱗でした。友人も内緒にしない方がよいのではと思い、講座のテキストを携えてご家族とお話ししました。ご家族は友人が徘徊しないように家に閉じ込めたり、認知症のことを隠していましたから」

その後、友人は認知症に取り組む医師につながり、近所に隠すことなく暮らしているそうです。

「私が面倒を見るわけではありませんので、『おせっかい』ですね。ご家族は定せず受け止めてくれました」

今では同じ内容の電話を繰り返しかけてくる友人にも、「そうなんだ」と穏やかな相槌を打つように。

「傾聴がうまくなったのは講座のおかげ。なぜ何度も受講すると言われますが、受講しないと忘れてしますから。受講は誰かのためではなく、自分のためですね」

参加者の武藤康子さんは3回目の受講です。初めて受講した当時、武藤さんは認知症かしらと思う友人がいました。本人に言えず、気付かないふりをして接していました。

周囲に理解されて気持ちが楽になったと思います」

こう語る武藤さん自身も両親の介護経験があります。「両親は認知症ではありませんでしたが、育ててくれた親が弱っていくのを目の当たりにするのは嫌でしたね。他の高齢者には優しくできることに、なぜか自分の親にはできない。両親を担当した看護師に気持ちを打ち明けると、それでいいんじゃないのと否定せずに受け止めてくれました」

健友会の事業所では無料低額診療事業をしています

医療費のお支払でお困りの方はご相談ください

無料低額診療事業とは…経済的理由により必要な医療が受けられない方々に、安心して治療を受けていただくための事業です。

利用するためには…収入状況等確認・申請による審査のうえ、適用となれば医療費の保険診療分が無料または低額になります。

（対象となる方）経済的な理由で治療費の支払いが困難な方

実施事業所

中野共立病院	03-3386-3166(代)
中野共立病院附属	
中野共立診療所	03-3386-7311(代)
川島診療所	医科 03-3372-4438 歯科 03-3373-2741



編集部から

「人」欄で紹介のお米屋さん。おいしい、さらさらの「ちやく」がたべたくて探していた「ササニシキ」に出会うことができました。でも無農薬米は売り切れ、減農薬米を購入、その場で精米してもらいました。帰宅後さっそく鍋で炊飯、なんと「つやつや」で「ふくら」なご飯です。一合ペロリ、と同行のWさん。

薬剤師募集中！

薬剤師さんをご紹介ください。

薬剤師も地域へ、在宅医療を旺盛に展開

株式会社 東京医療問題研究所 本社事務局電話 3389-6911
〒164-0001 中野区中野5-47-10
ホームページ <http://www.toiken.co.jp>

- 青葉調剤薬局 中野区中野5-47-10 3389-7110
- ちひろ薬局 中野区沼袋2-30-7 3387-3426
- わかば薬局 中野区弥生町3-27-11 3372-5664
- すみれ薬局 中野区東中野3-17-17 3362-2510
- 桃園薬局 中野区中野3-3-2 3384-5527
- 西荻みなみ薬局 杉並区西荻南1-14-19 3335-7200
- なごみ薬局 杉並区天沼3-28-8 5347-0671